

お変わりなくお過ごしでしょうか。ここルワンダは、乾季で3か月以上雨が降りませんでした。9月に入って、少しずつ降り始め、最近では雷鳴を伴う激しい雨が降るようになりました。今日も終日曇天で気温が低く、断続的に雨が降っています。雨期の到来で、埃で白くなっていた樹々の葉が雨に洗われ本来の色に戻り、美しくなりました。

今回の短信では2つのことについてお知らせ致します。去る19日(月)の午前7時、祈りつつ待っていたバレンティンの赤ちゃんが生まれました。男児で体重は2,080グラムと小さいのですが、母子共に元気です。

17日の朝6時、陣痛が始まってバイクで20分余りの距離にあるヘルスセンターへ入所しました。しかしながら、なかなか強い陣痛がこないため、翌18日の夕方、安全を期して20キロ余り離れた町の病院へ入院しました。そしてその12時間後、無事出産しました。

私は、17日と18日、バレンティンに付き添い、夜は私たちのスタッフ・デボタが付き添ってくれました。ルワンダでは、ヘルスセンターも病院でも入院中の患者に食事を出しません。その為、家族が食事を運びます。バレンティンの家族は、午前4時半に起きて食事を作り、夜が明けるや否やヘルスセンターへ運んでくれました。17日の朝食は、15歳のバレンティンの従妹が、徒歩で1時間余りを要して運んでくれました。

デボタは、生後4か月の赤ちゃんがいるにも関わらず、食事を作り、ヘルスセンターまで運んでくれました。彼女の夫も、私たちのセンターからヘルスセンターまでバイクで送迎するなど、まるで家族のように親身になって世話をしてくれました。

一方バレンティンは、陣痛が来ると涙していましたが、出産後にはすっかりお母さんになっていました。彼女は、赤ちゃんを見つめ、頭に触れ、指を握る・・・など赤ちゃんから目を離しません。

5月にバレンティンと実母を私たちのセンターへ迎え入れた意図は、2つありました。一つはバレンティンの心身の安静、もう一つは彼女が赤ちゃんを受け入れ、愛すること、でした。

保護されたセンターの環境が功を奏したようです。バレンティンは、胎児を

受け入れ、出産に臨みました。私たちスタッフも5月以来、胎児に語りかけるなど誕生を心から待っていました。それは、まるで過去の忌まわしい出来事が嘘のように感じるほどでした。そうして、赤ちゃんが誕生しバレンティンは、母として愛しているようです。心身の安静は今後しばらく続きますが、意図した后者は、現時点でほぼ達成できたようです。

出産は、私たちスタッフにとっても疲れましたが、大きな喜びに浸っています。

* * *

もう一つ、今年は労働ビザを更新する年で、難航するだろうと予想していましたが、2年前ほどではなく、今月無事取得することができましたので、お知らせ致します。

短信が遅れたこと、お詫び致します。皆様のお祈りに感謝いたします。

受益者のために、また経済的必要性のために、著書が用いられますように、お祈りくださるようお願い致します。

在 主

2016年9月29日

竹内 緑



赤ちゃんを抱くバレンティンとカウンセラー（右）